

2022 Ophthalmic Surgery Film Award

日時：2022年10月14日(金) 17:00～18:00 会場：第2会場(東京国際フォーラム Bブロック7F ホールB7(1))

授賞結果報告

Ophthalmic Surgery Film Awardは、「手術のプレゼンテーション映像を一定の基準のもとで評価するシステムを確立していくことで、日本の眼科手術の発展に寄与する」という趣旨で2005年に設立しました。設立以来多くの先生方にご支持をいただき、また共催会社のご尽力などにより、2006年に第1回授賞式を開催、今年で17回目を数えることとなりました。Film Awardを始めたころは、まだこうした手術映像の評価システムは日本国内では根付いていなかったのですが、これまでの応募作品のアイデアが医療品や医療器具に実用化されるなど、日本の眼科治療の中に浸透、定着はじめており、発起人として喜ばしく思っております。

例年申し上げておりますが、Film Awardは映像技術の優劣を競うものではありません。整ったきれいな映像ではなく、手作りの映像であっても新しいアイデアやコンセプトがあり、手術技術に優れているかどうかを重要視して審査しております。なお、審査員が関連している施設からの応募があった場合、該当者は審査から外れるなどして、できるだけ公正な審査を心がけております。

このFilm Awardのセレモニーは、応募者の皆さんに一切事前連絡を差し上げず、Film Award当日に授賞発表をお待ちいただくスタイルを取っております。応募者の皆さんにとっては、緊張と興奮のひとつときとなったことでしょう。

Ophthalmic Surgery Film Awardの表彰は次の3部門に分かれています。

- Technique/Complication Management部門
- New Concept部門
- Educational部門

それぞれの部門にGoldとSilverがあり、かつ全体を通して最も優れている作品に対して、Grand Prixが授与されます。審査の結果、今回もすばらしいGrand Prixと3つのGold、3つのSilverの作品が誕生しました。今回の7作品以外にもすばらしい作品が多く、私たちもとても勉強になりましたし、今後にも大いに期待したいと思っております。

Ophthalmic Surgery Film Award 選考委員代表 大鹿 哲郎



筑波大学
医学医療系 眼科 教授
大鹿 哲郎 先生

選考委員(五十音順)



国際医療福祉大学成田病院
白井 智彦 先生



昭和大学
恩田 秀寿 先生



東京慈恵会医科大学
中野 匡 先生



岡山大学
森實 祐基 先生

2022 Ophthalmic Surgery Film Award 受賞者

Grand Prix グランプリ

Technique/Complication Management 部門

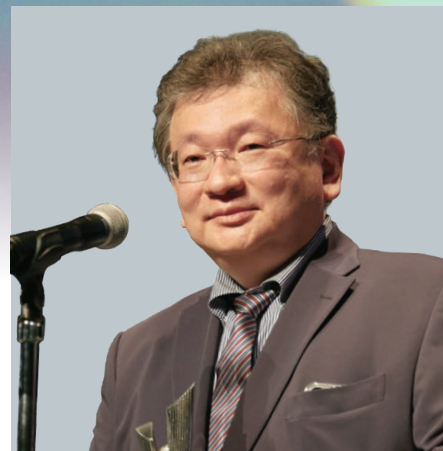
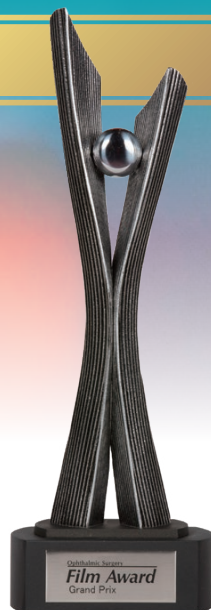
『Spiral CTR Injector』

しもわけ眼科 院長

下分 章裕 先生

歴史あるアワードでのグランプリを頂き光栄に存じます。この場を借りまして、開発にご支援いただいた方々に御礼を申し上げます。

この器具の開発を通じCTRの有用性を再認識いたしました。



Technique/Complication Management 部門賞



『フルオレセイン染色 OVD使用涙小管形成術』

大阪赤十字病院 医長

松山 浩子 先生

5～6年前に始めた手技で涙小管断端の位置によりますが有用な手技だと思えます。受賞できて光栄です。ありがとうございました。



『逆レンズフックの 活用法』

医療法人社団吉徳会 あさざり病院 眼科部長

森井 香織 先生

こういう器具があればと考え、自分で曲げて作ったのが始まりです。受賞でき大変光栄です。ありがとうございました。



New Concept 部門賞



『内境界膜を残して 黄斑上膜のみを 剥離する方法』

岡山大学病院 眼科 助教

的場 亮 先生

初応募なので驚いています。まだ発展途上の手技と考えていますので、この受賞を励みに研究を進め、完成度を高めたいと思います。



『難治性緑内障治療に 有効なアーメド緑内障 バルブ手術法』

東京慈恵会医科大学 眼科学講座 講師

増田 洋一郎 先生

NVGの重症患者さんに対する治療がきっかけで誕生した手技です。新しい緑内障ドレーナージデバイス開発につながればと思います。



Educational 部門賞



『術者目線直視下撮影』

大阪赤十字病院 主任部長

秋元 正行 先生

術者目線直視下の映像は、閲覧者が真似できるのが最大の利点。当院の若い先生が活用し、手技の理解度が上がるのを実感しました。



『シリコンモールドを 使用した網膜硝子体手術 シミュレーター』

神奈川県警友会けいゆう病院 眼科 医長

永本 崇 先生

私自身、バックル手術や硝子体手術を始めた時にこの方法で練習しました。多くの可能性を秘めた方法ですので是非ご活用ください。

